

平成28年度資産運用状況について

建設業退職金共済事業等勘定 特別給付経理

資産運用に当たっては、中小企業退職金共済法及び関係省令・告示並びに[運用の基本方針](#)に則り実施いたしました。建退共制度の安定的な運営を維持しうる運用収益を確保するため、最適な資産の組み合わせである[基本ポートフォリオ](#)に沿った資産配分を行い運用を実施いたしました。

平成28年度の資産運用は、自家運用では、金利が低迷を続け利回りが低下しました。委託運用では、先進国の緩やかな景気回復に加え、米トランプ新政権の経済政策への期待の高まり等から、内外株式市況が大きく上昇したため、内外株式の収益がプラスとなり収益を確保しました。

平成28年度末の運用資産残高は330億67百万円となり、当期の運用収益は3億46百万円（運用収入が3億50百万円、うち金銭信託評価益は2億4百万円）、決算運用利回りは1.04%となりました。

なお、当期総損失は6億77百万円を計上し、利益剰余金は143億09百万円を計上いたしました。

資産運用の内訳としては、[自家運用](#)は、期末運用資産残高156億61百万円、運用収益1億20百万円（費用控除後）、決算運用利回りは0.75%となりました。

[委託運用](#)は、期末運用資産残高174億5百万円、運用収益2億25百万円（費用控除後）、決算運用利回りは1.30%となりました。

委託運用のうち金銭信託に係るパフォーマンスは、資産別では国内債券・外国株式が[ベンチマーク](#)を上回り、国内株式・外国債券はベンチマークを下回り、超過収益率の合計は△0.24%となりました。

資 産 運 用 状 況

➤平成28年度の資産運用状況は、下表のとおりです。

(単位：百万円)

運用の方法等			資産額	構成比	運用収入 ①	運用費用 ②	運用収益 ①－②	決算運用 利回り
自 家 運 用	有 価 証 券	国 債	1,112	3.36%	6	-	6	0.48%
		政 府 保 証 債	10,587	32.02%	109	-	109	0.99%
		金 融 債	2,700	8.17%	5	-	5	0.20%
		計	14,399	43.54%	120	-	120	0.80%
	預 金	短 期 運 用	800	2.42%	0	-	0	0.01%
		普 通 預 金	462	1.40%	-	-	-	-
		計	1,262	3.82%	0	-	0	0.00%
	計		15,661 <15,951>	47.36%	120	-	120	0.75%
	委 託 運 用	金 銭 信 託	15,102	45.67%	204	-	204	1.36%
		生 命 保 険 資 産	2,303	6.97%	26	5	22	0.94%
計		17,405 <17,346>	52.64%	230	5	225	1.30%	
合 計		33,067 <33,297>	100.00%	350	5	346	1.04%	

- (注) 1. 資産額の<>内の金額は、平均残高である。
 2. 決算運用利回りは、運用収益を平均残高で除した数値である。
 3. 短期運用は譲渡性預金である。
 4. 単位未満は四捨五入しているため、内訳と計が一致しないことがある。

運用収益及び決算運用利回りの推移

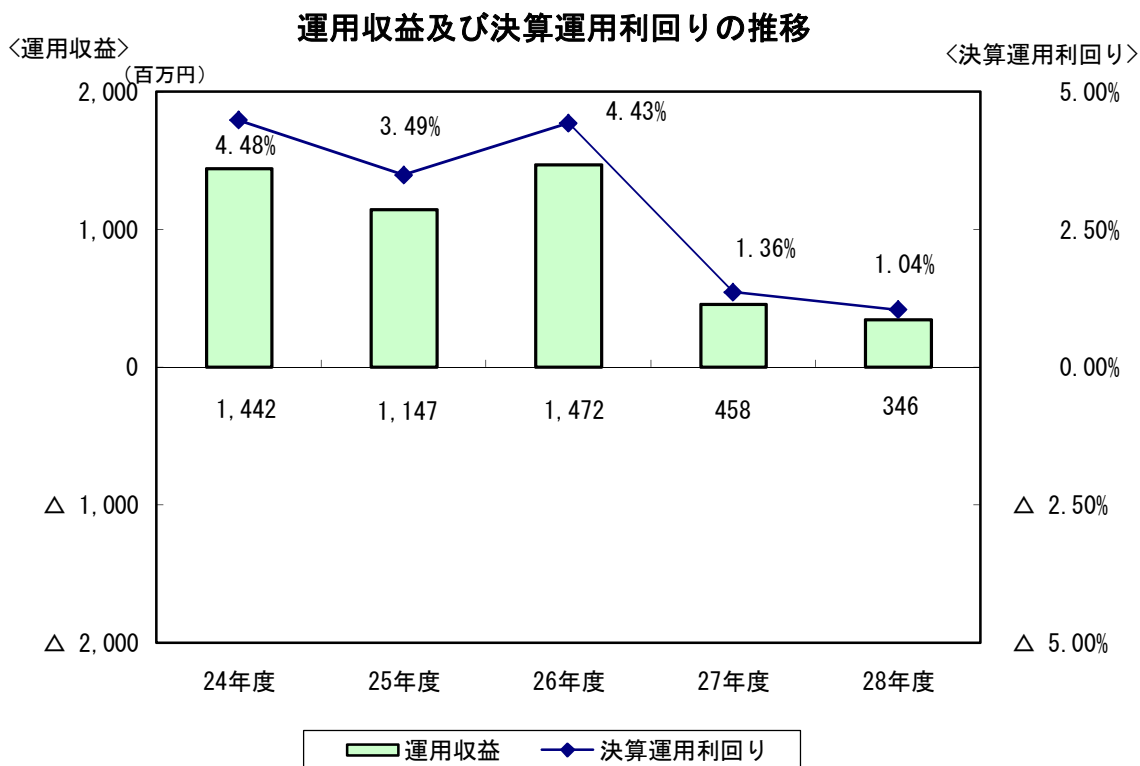
➤過去5年間の運用収益及び決算運用利回りの推移は下表のとおりで

(単位：百万円)

運用の方法等		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
自家運用	有価証券	228	220	181	146	120
	預金	1	0	1	0	0
	計	229	221	182	146	120
委託運用	金銭信託	1,180	891	1,257	287	204
	生命保険資産	33	35	34	25	22
	有価証券信託	0	-	-	-	-
	計	1,214	926	1,291	312	225
運用収益の合計		1,442	1,147	1,472	458	346

決算運用利回り	4.48%	3.49%	4.43%	1.36%	1.04%
---------	-------	-------	-------	-------	-------

- (注) 1. 運用収益は費用控除後の額である。
2. 単位未満は四捨五入しているため、内訳と計が一致しないことがある。



自家運用資産の構成状況

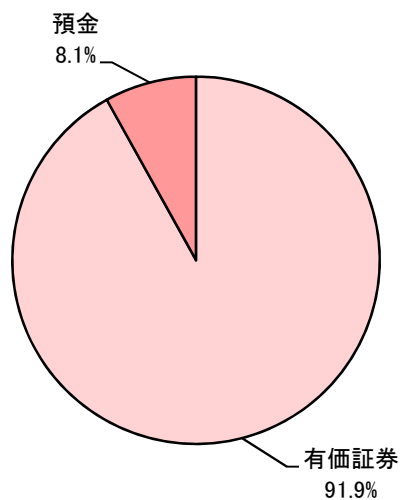
➤ **自家運用**は、元本の償還や利払いが確実な政府保証債を中心に運用し、平成28年度末の資産額は157億円で、政府保証債の割合は67.6%となっています。

(単位：百万円)

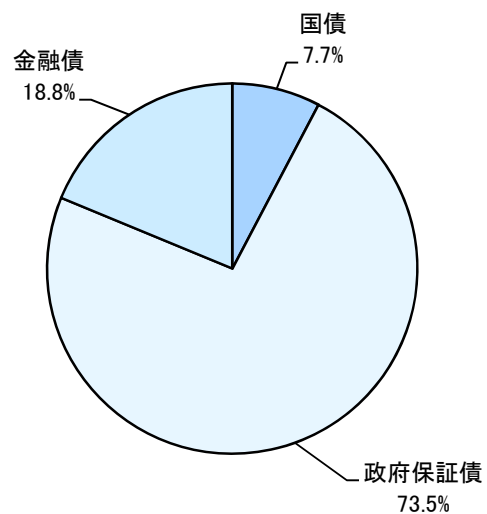
運用の方法等		資産額	構成比	有価証券構成比	
自家 運用	有 価 証 券	国債	1,112	7.1%	7.7%
		政府保証債	10,587	67.6%	73.5%
		金融債	2,700	17.2%	18.8%
		計	14,399	91.9%	100.0%
預 金	預 金	短期運用	800	5.1%	/
		普通預金	462	3.0%	
		計	1,262	8.1%	
合計		15,661	100.0%		

- (注) 1. 短期運用は譲渡性預金である。
2. 単位未満は四捨五入しているため、内訳と計が一致しないことがある。

自家運用構成比



有価証券構成比



委託運用資産の構成状況

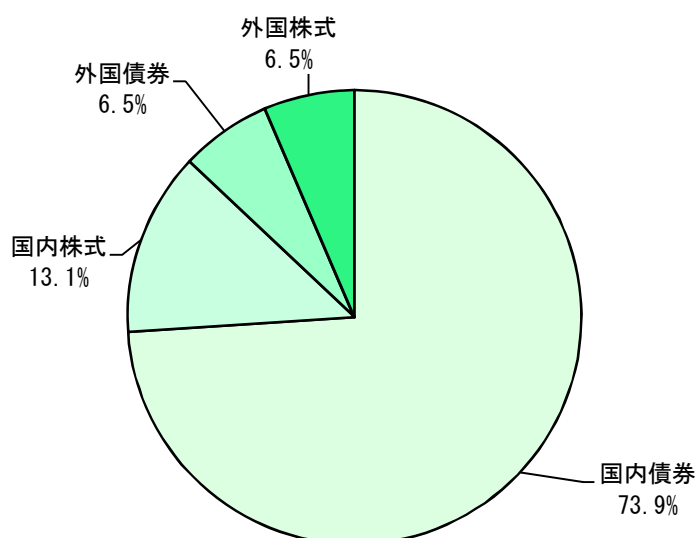
➤平成28年度末の委託運用のうち、金銭信託は、銀行(1社)及び投資顧問会社(1社)に、生命保険資産は、生命保険会社(4社)に運用を委託し、資産額は174億円となっています。

(単位：百万円)

運用の方法等			資産額	金銭信託 構成比
委 託 運 用	金 銭 信 託	国内債券	11,168	73.9%
		国内株式	1,980	13.1%
		外国債券	979	6.5%
		外国株式	976	6.5%
	計	15,102	100.0%	
	生命保険資産	2,303		
合計			17,405	

(注) 単位未満は四捨五入しているため、内訳と計が一致しないことがある。

金銭信託構成比



金 銭 信 託 の 収 益 率

>平成28年度は、委託運用資産のうち金銭信託の時間加重収益率は、資産別にみると国内債券・外国株式がベンチマークを上回り、国内株式・外国債券はベンチマークを下回りました。
 また、時間加重収益率の資産合計は1.61%、超過収益率の合計は△0.24%となりました。

資産区分		時間加重収益率	ベンチマーク	超過収益率
金 銭 信 託	国 内 債 券	△0.97%	△1.15%	0.18%
	国 内 株 式	12.59%	14.69%	△2.10%
	外 国 債 券	△5.84%	△5.41%	△0.43%
	外 国 株 式	15.08%	14.51%	0.57%
	合 計	1.61%	1.85%	△0.24%

(注) ベンチマークの合計欄は、構成比による加重平均である。

【時間加重収益率】

- ・キャッシュフローが発生するごとに期間（時間）を区切り、各期間ごとに収益率を計算し、最後に複数の期間ごとの収益率を掛け合わせる（加重）ことで求めた時価ベースの収益率である。

【ベンチマーク】

- ・運用成果を測るための基準となるもの。運用機関がどれだけの収益率をあげたかという絶対的な判断ではなく、市場に対してどうであったかという相対的な判断（ベンチマーク評価）をするときの基準値となる。

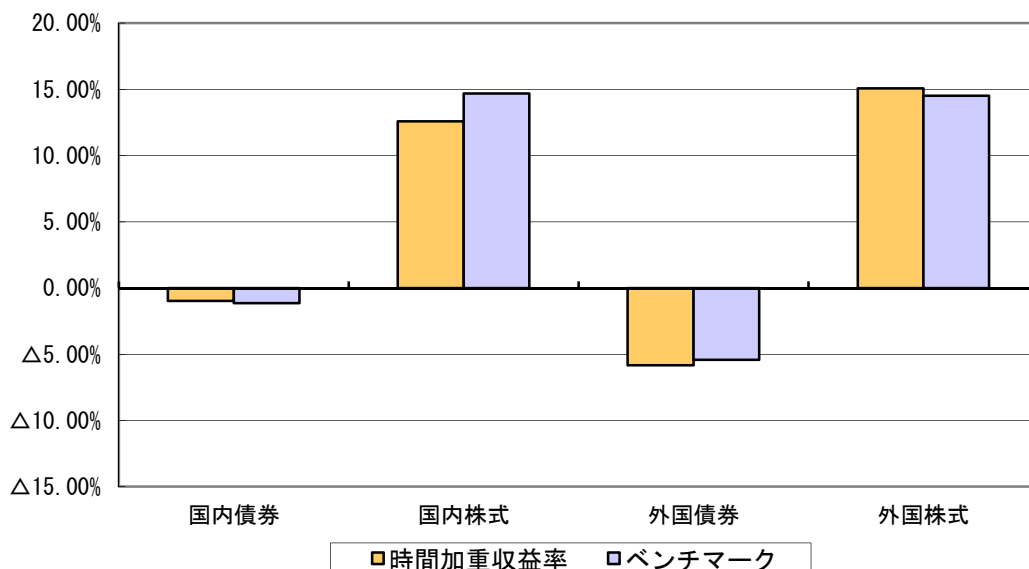
国内債券：[NOMURAボンド・パフォーマンス・インデックス（総合）](#)

国内株式：[TOPIX\(配当込み\)](#)

外国債券：[シティ世界国債インデックス（日本を除く、円換算）](#)

外国株式：[MSCI\(KOKUSAI、円換算、配当再投資、GROSS\)](#)

金 銭 信 託 の 収 益 率



運用資産の構成状況

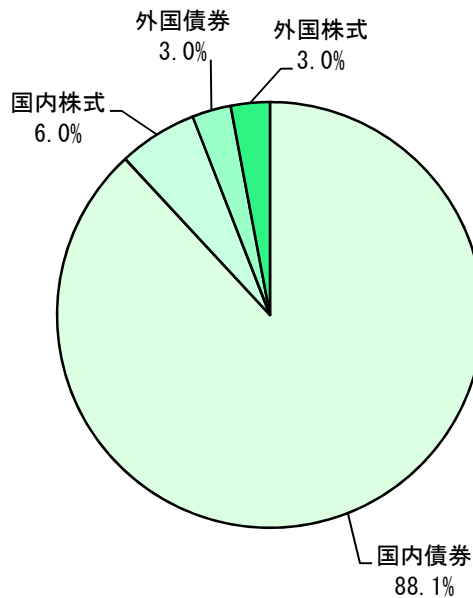
➤平成28年度末の資産構成状況は、[基本ポートフォリオ](#)に定める資産配分に対する[乖離許容幅](#)の範囲内を維持しました。

(単位：百万円)

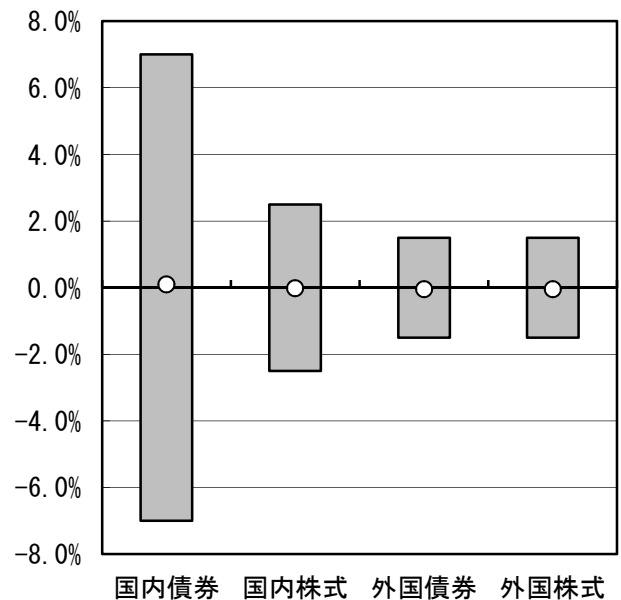
資産区分	基本ポートフォリオ	乖離許容幅	資産額	資産構成比	乖離状況
国内債券	88.0%	±7.0%	29,132	88.1%	0.1%
国内株式	6.0%	±2.5%	1,980	6.0%	0.0%
外国債券	3.0%	±1.5%	979	3.0%	0.0%
外国株式	3.0%	±1.5%	976	3.0%	0.0%
合計	100.0%	—	33,067	100.0%	—

- (注) 1. 国内債券には、預金及び生命保険資産が含まれている。
2. 単位未満は四捨五入しているため、内訳と計が一致しないことがある。

資産構成比



基本ポートフォリオ乖離状況



□ 乖離許容幅 ○ 乖離状況